《これからの予定》

開催します　『九輪ぴっく』　と　『語りんぴっく』

6月6日の天目山茶会は中止といたしました。縮小や形を変えての会を模索し、どのような形であっても開催したいと願い計画をしておりましたので断腸の思いではありましたが、感染の恐れがあるため昨年に続き本年も中止の判断とさせていただきました。早い段階からお問い合わせをいただき参加を楽しみにされていた方にはお詫び申し上げます。

しかしながらただ中止して予定を空にするのでは残念過ぎますので、茶会に変えた行事を企画し開催することといたしました。

九輪ぴっく（クリンピック）　と　語りんぴっく（カタリンピック）　です。お茶はお出しできませんが、境内に咲く九輪草を愛でながら、禅語を語りあいたいと思います。好日という名の金メダルをお授けいたしますので、お誘いあわせの上ぜひお出かけください。詳細はホームページからご覧ください。

日　時　　令和３年　６月　６日　（日）　　９時　～　１５時
※毎時０分の開始、最終は１４時を想定しております

志納金　　無料　（石庭拝観料300円のみお納めください）

禅　語　　建長寺派管長吉田正道老師の墨跡　他　四幅を予定

YBSツアー催行決定

新聞でお気づきの方もいたかと思います。山梨日日新聞やYBSテレビのグループ会社のYBSトラベルが栖雲寺ツアーを企画してくれました。4週連続の新聞広告や新聞の経済面にも記事として書いてくれたこともあり、おかげさまで5月末の初回は早々に催行が決まり、満席との報告を受けました。内容は坐禅と境内案内と宝物歴史講話。そして私の手作り精進料理などでお楽しみいただきます。

6月と7月にもツアーが設定されおりますので、ぜひこの機会にご参加ください。

その他の行事について

開山忌・施餓鬼会・宝物風入れ展などの定例行事につきまして、現時点では例年通り開催する予定でおりますが、新型コロナウイルスの感染状況やワクチンの接種状況などを考慮の上で判断してまいります。ホームページ等でご確認ください。

＜発行者＞　臨済宗建長寺派 天目山 栖雲寺　　住職 青柳真元
〒409-1201 山梨県甲州市大和町木賊122　　TEL 0553-48-2797
ホームページhttp://www.tenmokusan.or.jp　または[栖雲寺]で検索

公式ホームページ　　住職日単(blog)　　Instagram

お寺の説明、行事案内など　　日常をありのままに、住職日誌　　天目山の写真　*Please follow*

栖雲寺たより

天　目

第３５号

発行日

令和３年５月２５日

星のお寺　栖雲寺

栖雲寺の歴史や宝物を調べていて最近分かったことがあります。それは栖雲寺が星に深く関わるお寺だということ。寺名からして、雲が栖むあるいは雲に栖むお寺で雲に関係していることはよくわかりますが、それ以上に星と深く関わっているのです。

まずお寺奥にある大菩薩峠ですが、その名の由来は山頂に妙見大菩薩（みょうけんだいぼさつ）がお祀りされていたからという説が有力です。妙見菩薩とは北極星と北斗七星を神格化した仏様。裏を返せば北極星と北斗七星は妙見菩薩がこの世に現れた御姿なのであります。そして栖雲寺には妙見菩薩が安置されておりますので、大菩薩峠・北極星・北斗七星ともそれぞれ深いつながりのあるお寺なのです。

信玄公鉄製軍配

実は栖雲寺の宝物「信玄公鉄製軍配」は妙見菩薩が大きく関係しています。この軍配には北斗七星が描かれ、中央にはめ込まれた水晶は北極星になぞらえ、信玄公による奉納と言い伝えられています。北斗七星7番目の星は破軍星と呼ばれることから、北の空にある妙見菩薩が戦場に現れ、敵軍を破り勝利をもたらす軍神であると武将から信仰を集めました。破軍の力が宿った鉄製軍配は無敵の武田軍を築きあげた、まさに妙見菩薩のご利益を得た必勝軍配なのであります。

ところで、栖雲寺の開山業海本浄和尚様が生涯坐った石庭の山王神社付近に「星座石群」と名付けられた石があることをご存じでしょうか。現在かなり土に埋もれてはおりますが、夜空に散りばめられた星のように点在している石を指しています。また石の上で坐したまま寂滅したとも言われる業海和尚の遺偈（臨終の直前に弟子や後世のために残す末期の一句）の最後はこんな句です。

「天転星旋（天ハ転ジ　星ハメグル）」

悟りに至り、一生涯坐禅に徹した大和尚の最期の一句はこんな当たり前の一言なのです。しかし内容は重く、自分もこれから死んでいくように全ては諸行無常、結局目の前でめぐる星のように移り変わっていくのだということ。自分の死をもって弟子たちに伝えようとしたことであり、そんな重い重い一句であります。この句からも、業海和尚の示寂直前は、石上で北極星を見上げていたのではないかと想像されます。

「天目山」の名はご承知の通り中国の天目山へ修行に行かれた業海和尚が帰国し、よく似た地形のこの場所を天目山と名付けたわけですが、そもそも天目とはいったいなんでしょうか。天の目すなわち太陽と考えられ、天目山は太陽の山、そこに雲が栖むお寺と解釈するのがスマートかもしれません。しかし別の観点で、天目は不動なる天の目すなわち北極星を意味するとも考えられます。天目山と名付けた業海和尚の遺偈からしても、おそらく両方の意味なのでしょう。つまり天目とは妙見菩薩と同体であるともいえます。妙見とは、物事をありのままに広く正しく見ることのできる優れた眼力のこと。天の目の眼力で私たちをお守りしてくださいます。

こうして見てまいりますと、大菩薩峠の妙見菩薩、軍配に映した妙見菩薩、星の庭に坐して星の遺偈を残した業海和尚、北極星を冠した天目山、やはり栖雲寺は紛れもなく星のお寺なのです。

空気が澄んで乾燥した冬の夜、周りの星が明るくてオリオン座さえ溶け込んで見分けがつかなくなるほど星に満ちた天目山の空には北極星と北斗七星もよく見えます。北斗七星はすぐそばにいて北極星を守る星なのだそうです。互いに寄り添い助け合う和合のシンボルなのですね。

栖雲寺の開山様も修行僧も武田軍も、星にお祈りをしていたことでしょう。檀信徒の皆様におかれましても、今度あらためてそんな視点で星の軍配と妙見大菩薩様にご参拝ください。　合掌

【令和3年　活動報告】

定例坐禅会スタート

1月31日に初日を迎えた定例坐禅会。マイナス５℃の寒中岩坐禅にはさすがに誰も来ないかもしれないと心配いたしましたが、それも杞憂に終り、3名もの参加者を得ました。その後も2月4名、3月5名、4月10名の参加者です。ひと月ひと月、少しずつ寒さも和らぎ緑が芽生え、鳴く鳥も増えてくる。禅堂内とは違った四季を味わいながらの岩坐禅。全国でここ天目山でしか体験することのできない坐禅会です。ぜひご参加ください。

毎月最終日曜日の午前7時～8時30分　志納金300円　　くわしくはこちら→

蕎麦打ち道具一式を寄贈いただく

お寺は仏具や法衣、浄財もそうですが、全てお布施つまり寄付で成り立っております。このたよりやSNS等で私の蕎麦打ち修業を発信しておりましたら、道具を寄贈したいという方が数名現れ、こね鉢・包丁・のし棒・のし板などをご寄付いただき、お陰様で何一つ買うことなく道具全てが揃いました。中には「発祥の地の天目山に寄付するのだから変なものはあげられない。」と素人が使うにはもったいなすぎるほどの包丁など一流の道具もあります。

こうした応援をいただくことは大変励みになります。大切に使わせていただきます。本当にありがとうございました。

4月末までに先生のもとに10回通い、当初の目標は達成です。しかしながら、人様に堂々と自信をもって出せるレベルではないため、さらなる修業が必要です。今後も引き続き蕎麦打ちに精進してまいります。

知人のユーチューバーが蕎麦打ち修業の様子を撮影してくれました。よかったら栖雲寺ホームページからご覧ください。

蕎麦の種まきと、蕎麦ふるまい

昨年9月下旬に蕎麦の種を蒔きました。しかしこの時は時期が遅すぎたようで、虫メガネでないと見えないくらい小さな花が数輪咲いたのみでした。しかも鹿に全部食べられてしまい、一言で言えば失敗に終わりました。この春リベンジです。3月末から2週間おきの日曜日に少しずつ蒔き、どの時期のものが一番成長が良いかの実験も兼ねております。その中で4月25日(日)と5月23日(日)に最も多く手伝いを頼み、畑や本堂前など広範囲に種を蒔きました。地元の青年達の他、忍者隊、遠くは南アルプス市や東京からも来てくれました。今度こそ、たよりの次号できれいに咲いた蕎麦畑の写真を載せたいと思っています。ご協力いただきました皆様、ありがとうございました。

5月23日には栖雲寺で蕎麦を初打ちし、種蒔き参加者に試食してもらいました。「鳥もつ」で有名な川田奥藤第二分店さんがめんつゆを寄贈してくださり、名店の味の力を借りてなんとか蕎麦になったと思います。

坐禅と歴史の研修会　市内の全小学校への提案を終える

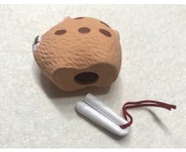
昨年末から廻りはじめ、甲州市内に13校ある小学校全てへの訪問を終え、各校の校長先生にお会いして栖雲寺での坐禅と歴史の研修会を提案させていただきました。どの学校の校長先生も熱心に聞いてくださり感謝申し上げます。2月にお伺いしたある小学校は、早速1か月後の3月に6年生の卒業遠足で来てくれました。そして今年度も数件のご予約をいただいております。今後も多くの学校が栖雲寺に来てくれることを願います。

お寺の住職として、文化財の保護や後世への継承は最重要課題です。また未来を担う少年少女は地域の宝であり、子供たちの心の育成も同様に重要な使命であると感じております。過疎化、少子高齢化は甲州市も深刻で、これから50年後、100年後に向けて甲州市の至宝である人も物も共に守っていく。そのためにも大切な情報を子供たちに伝え、心を育て、後世にバトンタッチすることが必要であると強く感じこのような活動をしております。地域の皆様方におかれましても、ご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

しだれ桜　満開２週間

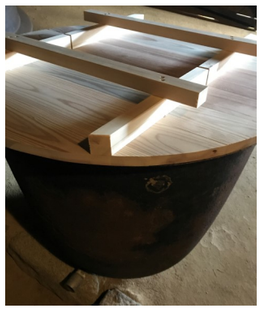
今年は境内のしだれ桜がとても長期間咲きました。暖かくなり一気に開花から満開に至りましたが、そのころから急に寒の戻り、寒い日が長く続いたことが大きな要因でしょう。雨もなんのその、まさかの２週間ほとんど散ることなく満開のままで咲き続けました。お参りに来た多くの人々に福を授けてくれました。

おみくじ御守り



猪を使いとする摩利支天様のおみくじをはじめました。たくさん並んだ猪の中から一つを選び、体内のおみくじを引いていただきます。引いた後の体内には、摩利支天様の御札を封入いたします。これは江戸時代から伝わる版木で一枚一枚刷ったご神体に、住職が「除災招福・必勝成就」と筆書きして御祈祷した御札です。除災・必勝の御守りとしてご自宅のお好きな場所に置いていただけます。　　一体700円

五右衛門風呂



五右衛門風呂がお寺に納められました。蓋と踏み板を新調したので、あとは設置すればすぐに使える状況にあります。

しかし見積もりをもらったところで計画が一時ストップ。ちょっと高額すぎて手が出ません。この際詳しい人と一緒に調べて工夫して、大工さんに頼らず自作で風呂場を作ろうかとも考えております。設置までもうしばらくお待ちください。